
ユウジ

はっち

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ユウジ

【Nコード】

N2207B

【作者名】

はっち

【あらすじ】

両親の不仲から、家族がバラバラになってしまった主人公のマイ。自分の居場所を見つけないと強く望むマイは、同じような境遇で育ったユウジと出会い、恋に落ちた。普通の幸せな家庭を作りたいと夢見る二人の恋の結末はハッピーエンドか？それとも…！？

バラバラになった家族（前書き）

この物語はフィクションであり、登場する人はすべて架空の人物です。

バラバラになった家族

「てめえ、ふざけてんのか!！」

父親の怒声と共にガシャンツと2階まで響く音がした。そして母親の泣き叫ぶ声。

私は心臓のドキドキが急に速くなって体中が熱くなった。

「またか。」

1階で起きてる事態を思い浮べると体が緊張と恐怖で硬直した。時刻は11時をまわった頃だった。明日の学校の準備をし、眠りにつこうとベッドに入ったところだったのに…。

強張った体で部屋のドアを静かに開けると、隣の部屋の妹が階段の下を覗いていた。

「なっちゃん、おいで。」

震えた声で妹を呼び、一緒に寝ようと言って私と妹は部屋に戻った。電気を消して2人でベッドに横になり目を閉じた。妹の体が震えていた。

なっちゃんは8才。10コも歳の離れた妹だ。目はくつきり二重でまんまるしてて、髪がクセツ毛でクルクルしている。色白で可愛い容姿からか、誰からもとても可愛がられていた。

目を閉じて30分はたっただろう。夜の不気味な静けさを引き裂き、1階で起きてる事態はまだ納まる事無く怒声と悲鳴で緊迫していた。

「起きてる?お姉ちゃん」

体が緊張して眠れずにいた私に、妹がひそひそ声で話し掛けてき

た。

「なっちゃん、眠れないの？絵本読む？」

「んーん。なっちゃんはお姉ちゃんいるから大丈夫。ママは大丈夫かなあ？泣いてたよ。パパに怒られたのかなあ？」

「ママとパパはほんとは仲良しだから心配しないでいいよ。ねっ！？」

「でも…パパはいつも怒ってる。ママ可愛そう」

「なっちゃんは心配しなくて大丈夫だってば。こちよこちよっ！」

妹はくすぐられてキャピキャピ笑い、笑い疲れて眠ってしまった。私も寝ようとしたが閉じた瞳から涙がとまらなかった。悔しい涙、悲しい涙、辛い涙、恐い涙。

「なんでウチはこんな家庭なんだろ…」

父親は酒乱、母親は家事をしない、だらしない人達だった。

それでも昔はそれなりに幸せな普通の家族だと思ってた。父親は酒さえ飲まなければ子煩悩で優しい人だった。母親は家事は苦手だが明るくていつもニコニコしていた。

しいていえば二人とも元ヤンで、父親が21歳、母親が17歳の時に出来ちゃった婚をし、兄が産まれたことから現在の家族に至る。ウチがおかしくなりだしたのは、私の中1で、兄が中3の頃。二人とも、まさに思春期真っ盛りだった。

最初の喧嘩の原因は妹のことじゃないかと思う。

これは喧嘩の内容をこっそり聞いていた私の勘だが、妹と父は血が繋がってない。

きっと妹の父親は母の浮気相手だ。それに勘付いた父親が母親に疑いをかけるようになった。

というか、きつとそうだ。あの頃から父親は毎晩浴びるほど酒を飲み、しょっちゅう暴れた。

母親の金遣いは荒かったので、いつのまにかローン地獄に陥って

たことも喧嘩の原因だったんだろう。そして夫婦の仲はどんどん壊れていった。

兄は地元の高校の受験に失敗し私立の高校に入学したが、たくさん問題を起こし1学期で自主退学した。

中学の時も目立つ子だったが、根は優しく、素直だったのに、どんな非行に走るようになった。父親が酒乱で暴れていると、バットを持ってとめに入り、近所の人が駆け付けてくるほどの大事になったこともあった。私と妹には優しくかった兄も、暴走行為や数々の非行、傷害罪など積もり積もった罪を償うために、17歳の時に少年院に送られた。あと半年くらいで出所できる予定だけだ。

朝目覚めると父親は仕事ですでにいなかった。母親はまだ部屋で寝ているようだった。

散らかったリビングは一人ではとても片付けられそうにない。

昨夜の父親ははよっぽど荒れていたんだろう。

だらしない母親の体調も気掛かりだったが、妹を起こし一緒に朝食を食べ、学校へ送り出した。

私がリビングを片付け、たまった洗濯を干し、高校についたのは3時間目の半ばだった。

「おい。森！！またこんな時間で単位は大丈夫なのかあ？」

階段ですれ違った担任の小林先生が声を掛けてきた。

「先生、おはよう！いつも遅刻でごめんね。単位はぎりぎりだよ。ちよっと位おまけてよ。」

笑いながら言った。

「まあ、留年しないようにうまくやれよ。」

この先生は物分かりがいい。

以前家の事情を少し話したら、遅刻や欠勤を叱られることがなくなった。

もともと通ってる高校の校則がゆるく、校風が自由だったから、学校はスキだった。

学校には中学から仲良い友達のコミコとアカネがいたし、授業が終われば近所のコンビニでバイトする。接客業は天職だと思うほど楽しかった。

部活は陸上部に入ったけど、今年の春に引退した。

あと半年で高校を卒業する私は、もう自分の進路を決めなくてはいけない時期だった。

大学に行きたいけど就職してお金を稼ぎたいという気持ちのほろろが大きかった。まあ、大学に入学するための金はウチにはないと悟っていたから。

私の生活環境はそんな感じで、一見、まわりからみたら普通の高校生だったと思う。

毎日家に帰るのがすごく嫌だったけど、家族が心配だからちゃんと帰る。あたしは兄と違い、グレる事無く育っていた。

ある日、寝ていた私は懐中電灯のひかりと男の人の声に気付き目を覚ました。

「大丈夫ですね。寝ているようです。」

まわりは暗いからどうやらまだ夜中らしい。

ひかりの元に目をやると、廊下の電気がついていて、黒っぽい人影が2つ見えた。その影は部屋のドアをそっと閉め、見えなくなっ

た。
ボーツと夢と現実を彷徨って、私は急に意識がはつきりした。

(け、警察官!?)

慌てて部屋を出ると、さっきの警察官が妹の部屋を開け、同じように確認していた。

「なんか、あつたんですか!?!」

強盗、殺人、泥棒、火事、一気に不安と恐怖に震え、1階で寝ていた両親を心配した。

「ん、大丈夫だよ。心配しないで寝てなさい」

こんな夜中に警察官がウチに来ているという謎が、一行に解けない返事が帰ってきた。

私が静かに階段を降りると玄関にもう一人警察官が立っていた。

夜中のはずなのに1階は電気がたくさんついていて妙に明るかった。リビングを覗くと警察官が2人立っていて、正座をしている父親と話をしている。母親の姿は見えなかったが、玄関にいた警察官に「心配しなくても大丈夫だから寝てていいんだよ」

と優しく声を掛けられ、謎を残したまま部屋に戻った。

すぐに寝付けるわけもなく、しばらく物音に耳をすましていたが、状況はまったくつかめなかった。

翌朝、リビングに行く足裏が泥だらけの母親がいた。

私は動揺を精一杯隠して冷静に聞いてみた。

「昨日の夜、警察官来てなかった？」

「来てたよ。」

（やっぱり夢じゃなかったのか。）

話によると、寝ていた父親が急に布団の下から包丁を出し、一緒に死んでくれといって母親に襲い掛かったらしい。

母親は慌てて裸足で逃げて、近所の工場に身を潜めていたところ、たまたま巡回していたパトカーに拾われたらしいのだ。

「ふん。」

私は興味なさそうに相づち打った。

正直、そんなことにもそれほど驚かなくなっていた。こんなバカな大人には絶対ならない。自分の子供にこんな思いは絶対させない。そう思う私から見た両親は救いようのない程壊れていた。

（頼むからホント、離婚してよ。）

心からそう思った。

私はその日からずっと高校を休んだ。妹は休まず学校に行っていたが、これ以上不安にさせないように、少しの間、母親の実家に置いてもらうことになった。

妹はおばあちゃんっ子だったし、同じ町内だったから小学校もそこから通えた。

季節は11月。私は高校を辞めることを決意し、働き先を探した。担任の小林先生は中退に猛反対して何度もウチに来てくれた。もちろん両親も猛反対した。泣きながら頼むから高校は卒業してくれとせがった。ユミコモアカネももう少しだからがんばろうって言うてくれた。

だけど、今の家庭の状況が私にはどうしようもなく辛かった。一刻も早くウチを出たかったんだ。

追い込まれていた私の精神には、他人の思いやりを素直に喜べる余裕もなく、先生やユミコやアカネに対して劣等感を持っていた。(私の辛さなんかみんなには分かんないよ。みんなには平凡であつたかい家があるじゃん！誰も私を分かってくれない。産まれてこなければよかった。)

私の青春は人生で一番辛い時期だった。

バラバラになった家族（後書き）

最後まで目を通してくださってありがとうございます。初めての作品なので、最後まで読んでくださった方がいるだけですごくうれしいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2207b/>

ユウジ

2010年11月5日07時35分発行